



「広系酒 45 号」で造られた『明魂』



G7サミットで「瑞季(みずき)」をアピール

本号で紹介する酒米「広系酒 45 号」は、酒米の高温障害の発生を回避したい生産者、酒どころ広島らしい高品質な「売れる日本酒」を造りたい酒造会社の要望を受け、10年の歳月をかけて育成された品種です。私たち農業技術センターは、こうした生産者や企業の課題解決、アイデアやニーズの実現を支援することを日々の活動の根幹としています。技術開発だけでなく、新技術を実際に目で見て確かめていただくための見学施設も設置し、皆さまのご見学にも対応しています。また、G7 サミットでは国際メディアセンターでカンキツ新品種「瑞季(みずき)」を海外の報道関係者にプレゼン、試食してもらうなど、広島県産品のブランド向上にも取り組みました。これからも広島県農業の振興、広島県のおいしい、楽しいといった魅力向上にも貢献していきたいと思えます。

(センター長 ^{やない} 梁井 秀樹)

成果情報

新奨励品種酒造好適米「^{ひろけいさけ}広系酒45号」
栽培技術研究部

「広系酒 45 号」が、本年度から新たに本県奨励品種*に採用されました。この品種の特徴は、収量性に優れ、暑さに強く良質で(本誌 No.133)、醸造面では溶けやすくアルコール生産量が多くなることです。これまで試験醸造した県内酒造会社からは、「蒸米のサバケが良い、醪(もろみ)中で溶けやすい、製成酒はふくらみのある味わい」等の評価をいただいています。

本年は安芸高田市高宮町、三次市三和町、東広島市高屋町の3地域で各2ha栽培されており、秋には約30tのお米が収穫できる予定です。県内の酒造会社がこのお米を使って試験醸造し、お酒は一般に販売される予定です。是非ご賞味ください。



図1 「広系酒 45 号」の玄米

玄米の中心部が白く濁っている部分を心白といいます。飯米品種ではほとんど発生しません。心白があることで、米の中に麹菌が均等に入り込むことができます。



図2 現地栽培の「広系酒 45 号」(R4 年)

奨励品種*: 各都道府県が定めています。広島県では飯米9品種、酒造好適米6品種(内1品種は準奨励品種)、もち米2品種を選定しています。

成果情報

イネ種子内のイネシガラレセンチュウは低温保存で20年生存する

生産環境研究部

イネシガラレセンチュウ(以下、線虫)はイネの害虫です(図1)。イネに寄生するとイネ種子が小さくなり、減収します。また、黒点米を発生させ、品質を低下させます(図2)。イネの種子は線虫が生存しやすい低温保存されます。そこで、低温保存中の種子内の線虫の生存率を調査しました。

その結果、イネ種子を5℃で保存した場合、線虫は12年間ほぼ同じ生存率で、約20年後でも約50%が生存していました。また、-30℃で保存した場合、線虫は約18年でも約40%は生存可能でした(図3)。以上の結果より、線虫は5℃、-30℃の低温下では、種子内で長期間生存することが明らかになりました。

このため、過去に線虫被害が発生した水田の種子は、保存期間に関わらず、確実に種子消毒することが必要です。

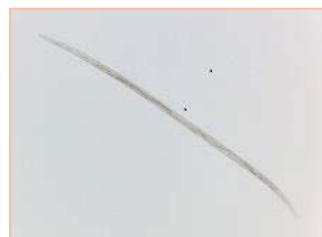


図1 イネシガラレセンチュウ
雌成虫

図2 黒点米

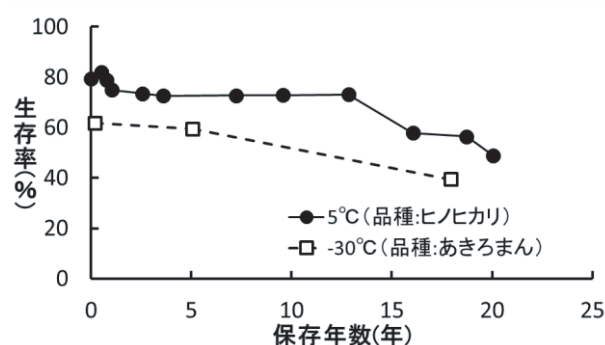


図3 イネ種子の低温保存期間が種子内のイネシガラレセンチュウの生存率に及ぼす影響

研究紹介

ハウスレモンの開花期予測支援ツール

果樹研究部

レモンのハウス栽培(図1)は品薄である夏季に出荷できることから、近年、県内でも取組みが広がっています。しかし、ハウス栽培に関する基礎的な情報が不足していたため、夏季に十分量を収穫できない事例も見られました。

当センターでは、令和4年度までの研究により、夏季出荷を実現するには開花(図2)時期を早める必要があることを明らかにし、開花予測技術を開発しました。しかし、これらの研究成果は、現地指導者や生産者が簡単に利用できませんでした。

そこで、令和5年度からは、これまで得られた研究成果を多くの現地指導者や生産者に活用していただける「ハウスレモンの開花期予測支援ツール」の開発に取り組んでいます。



図1 県内のレモン栽培ハウス(瀬戸田町)



図2 ハウスレモンの開花(令和4年12月)

トピック

G7広島サミット国際メディアセンターでカンキツ新品種「瑞季」PR

果樹研究部

広島で開催された G7 サミットにおいて、果樹研究部が京都大学と共同で育成したカンキツ新品種「瑞季(みずき)」をPRしました。

サミット最終日の5月21日の朝、国際メディアセンターのプレゼンブースで、試食準備のため果実をカットしていると、通りかかる各国のメディア関係者は「いい香り」といって足を止め、「何時から食べられるの？」と興味津々。11時の開始とともに、多くの国内外の方々が集まり、食べやすくカットした「瑞季」を次々に試食され、「黄色いから酸っぱいイメージだったけどとても甘い」、「ブタンって海外ではグレープフルーツぐらいしかないからとても珍しい」および「果皮も食べられるなんて健康的で良い」などの好評をいただきました。



図 「瑞季」を試食する海外メディア等

トピック

LEDランプ「美観灯」の導入広がる

果樹研究部

本誌 No.130でもご紹介した「美観灯(みかんとう)」が広島市の食品工場へ導入されています(左図)。「美観灯」には、広島県が保有する特許技術(第6837634号)が活用されており、優しく温かみのあるその光には人をリラックスさせるだけでなく、虫を寄せつけにくい効果があります。高い衛生・品質管理が求められる食品工場では、商品への異物混入は大敵で、様々な対策が講じられているそうです。虫も異物の1つであり、「美観灯」は対策の一翼を担っています。

福山市にあるモニュメントを美しく照らしているのも「美観灯」です(右図)。周囲の景観に見事に溶け込み、訪れる人々を静かに、そして優しく見守っているかのようです。



図 LED ランプ「美観灯」の導入事例
左)オタフクソース株式会社本社工場(広島市)
右)エフピコアリーナふくやま(福山市)

虫博士の虫のお話



(8)チャコウラナメクジ その1

いろいろなところでナメクジ類が発生し、農作物の被害だけでなく、見た目が気持ち悪いなど衛生害虫としても問題となっています。在来種として、ナメクジやノハラナメクジがいますが、海外からやってきたチャコウラナメクジがいます。チャコウラナメクジは第二次世界大戦後に、アメリカからやってきて、現在、全国に広がって、優占種となっています。優占種になった理由はわかっていません。

チャコウラナメクジは年2化で、11月から4月まで産卵します。孵化のピークは4月です。日中は落ち葉や石、ブロックの下など適度な湿度に保たれている場所にいます。夜行性ですが、雨が降ると活動のパターンが変わり、日中でも雨上がりに活動します。チャコウラナメクジは気に入った餌があると、そこに夜な夜な現れます。

その行動は、チャコウラナメクジには学習能力があり、餌の場所を記憶しているからできるのです。好きな餌を食べている最中に、嫌いな物質をチャコウラナメクジに与えると、それを記憶して、好きな餌に寄り付かなくなります。人間が思った以上に、チャコウラナメクジの脳力は高いようです。

(図・文 生産環境研究部 総括研究員 星野 滋)



図 トラップにかかったチャコウラナメクジ

農業技術センターホームページをご覧ください。

広島県 農業技術センター

検索

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>

農業技術センターホームページでは、センターニュースのバックナンバーをはじめ、センターに関する最新の情報を提供しています。ご活用ください。

なお、スマートフォンにも対応しています。右の2次元バーコード(QRコード®)を読み取って、アクセスしてください。いつでもお気軽にご覧になれます。



農業技術センターNews No.136

令和5年7月25日発行

編集発行 広島県立総合技術研究所

農業技術センター技術支援部

〒739-0151 広島県東広島市八本松町原 6869

TEL: 082-429-0522 (技術支援部)

E-mail: ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp